

西部
(浜松市)共生型福祉施設
(指定サービス)社会福祉法人和光会
なごみお年寄りと子どもたちの笑顔がひとつに
安心して暮らせる「我が家」

「子どもから高齢者までの多世代交流」を大切に「なごみ」。この施設が開設されたのと同じく、3年前に開園していたことも園との敷地境界にあった柵を撤去。ウッドデッキで園庭をつないで、文字どおり、高齢者と子どもたちの垣根のない交流が始まりました。高齢者たちは、園庭で遊ぶ子どもたちを眺めたり、子どもたちとふれあうことで生き生きとした表情が戻り、認知症の症状が少しずつ穏やかになっていきます。初めは高齢者が怖くてそばに近寄れなかった子どもも、次第に慣れて自ら声をかけていくようになり、子どもたちの成長にも一役かっています。



ラジオ体操イベントは一緒に参加

メッセージ



施設長 徳田 義盛さん(右)
介護統括主任 大貫 雅史さん(左)
当施設の認知症対応型デイサービスは、さまざまな症状の認知症の方が来られます。そういう方にこそ子どもたちの果たす役割は大きく、症状改善の効果も大きいと感じます。一般のデイと比べて専門性の高い職員を厚く配置していることから障害のある方の対応も可能と考え、今後は障害のある方も含めた交流へと広げたいです。

ここに注目!!



施設と子ども園の間には垣根がないため、いつでも行き来が自由。高齢者がウッドデッキに出て休んでいると、園児は自然と声をかけてきます。また、高齢者が作る家庭菜園を見守る園児の姿も。

子育て支援ひろば「なごみCIRCUS」などに併設された「Ncafe」は、食にこだわったおしゃれな空間のカフェ。赤ちゃんから高齢者まで誰でも利用することができます。「カフェde相談」開催。(平日11:00~16:00)「なごみのえがおカフェ」は毎月2回、日曜日にデイサービスにて開催。(はままつし認証オレンジカフェ:認知症カフェ)



DATA

☎(053) 420-7531

浜松市北区三方原町1383-1

F A X / 053-420-7533

U R L / http://www.nagomi.hybs.jp/

E-mail / kaigo.nagomi@wakokai-net.com

アクセス / JR浜松駅から遠鉄バス引佐・渋川・奥山線「百園」下車、徒歩2分

駐車場 / 有

※視察は事前の電話連絡必要



〈経緯〉

平成18年 なごみ保育園(認可保育所)を開設
平成21年 なごみ(地域密着型特別養護老人ホーム、認知症対応型デイサービス、居宅介護支援事業所)を開設
平成25年 なごみ倶楽部(学童保育)開始
平成26年 CIRCUS(子育て支援ひろば、Ncafe、こどものとも社(絵本と木製玩具))開設
平成27年 幼保連携型認定子ども園なごみに移行。CIRCUS内になごみ保育室(小規模保育事業)を開設

〈運営〉

運営主体:社会福祉法人和光会
代 表 者:志賀口 大輔(理事長)

あ
と
が
き

当ガイドブックは、公益財団法人さわやか福祉財団の研修・選考を経て委嘱されているボランティアリーダー、「さわやかインストラクター」の皆さんのご協力を得て企画・取材しました。

さわやかインストラクター 稲葉 ゆり子

県内のどの町に住む人も「居場所を作りたい」という。あの町、この町で「居場所を増やしたい」という。「入っていいですよ」「お座りください」があれば、それは居場所。会って、話して、笑って、気になる人もできて助け合いがはじまる居場所。思いでできる居場所も、必要だから創る居場所も、自由に足を運んでいる中に心地いい空間に。地域の味と知恵が加わって、ふれあい、たすけあう居場所から富士山が見えます。

さわやかインストラクター 木下 さち子

事例集作成に関わり、県が推進している「垣根のない福祉サービス」が着実に実を結び始めていますと実感でき、「居場所から広がる助け合い」も自然な形で行われていました。素晴らしいこと!!です。また、若年性認知症の方々の「生きがい就労」を目的とした居場所等、新しい試みも生まれてきました。「共生型サービス」では、共にふれ合うことでの相乗効果も出てきており、お互いを想う心を感じました。「住民主体の支え合い社会へ」という手ごたえを感じ、力強く思いました。

NPO法人
たすけあい遠州

☎(0538)43-7775

JR袋井駅前 もうひとつの家
担当/稲葉 ゆり子

NPO法人

WAC清水さわやかサービス

☎(054)336-8844

静岡市清水区 みんなの居場所わくわく亭
担当/鈴木 明与

NPO法人

すずらの会ネットワーク

☎(090)5870-4413

富士宮市小泉
担当/木下 さち子

NPO法人

ねっとわあくアミダス

☎(090)6582-8150

浜松市浜北区 オープンカフェきしの社
担当/脊古 光子

「近隣助け合い時間通貨体験ゲーム」で“助け合い”を疑似体験

「近隣助け合い時間通貨体験ゲーム」は公益財団法人さわやか福祉財団が作成したものです。助け合いには様々な形があり、実際にはじめてみなければわからない部分があります。一見、助けられるだけの人も隠された才能があったり、「こんなことで他の人の役に立つの?」と言ったことに気づくことができます。この体験ゲームを通じて、地域の課題、必要とされているサービス、支え合いの地域づくり重要なヒト・サービス・モノなどの社会資源を見つけてください。

ゲームを通じて、グループ内の交流が深まることはもちろん、助け合いのイメージも現実味が出てくるでしょう。異世代メンバーを入れたり自分のオリジナルサービスメニューカードを作って、地域や自分に合ったゲームにすると地域や個人の問題、サービスが見えたり、より一層内容が深まります。参加者から意見を聞くことで近隣助け合いの意義が確認できると思います。ゲームを試してみたいと思われる方は、「さわやか静岡」のメンバーまでお問い合わせ下さい。

〈ゲームの進め方〉

- ①グループを作る。1グループは、5~10人程度。なるべく男女や年齢をミックスした方が盛り上がりやすい。
- ②グループ内に、サービスメニューカード50種類をばらまきます。
- ③コーディネーターが「自分がしてもらいたいことを5枚ずつえらんで下さい」「選んだらグループ内においてサービスの交渉を行ってください」と伝え30分程度ゲームを進行します。最初は自己紹介も兼ね、順番に1周してやり取りをすると効果的。

